

# 「ユニセフ子ども物語」

地球に住む子どものいろいろな暮らしを知ろう

United Republic of Tanzania

## タンザニア 連合共和国



アフリカ大陸の東、ここはタンザニアのハンガ村です。照りつける太陽の下、トウモロコシ畑がさやさやと音をたてています。きのうふった雨は、あつい太陽のせいでじょう気になってもうっと空へあがっていきます。



ハンガ村に住むムワシャバニは10さい、レヘマは7さい、二人は仲の良い姉妹です。

二人の一日はまず水くみの仕事からはじまります。太陽がまだ顔を出しきらないうちに、ムワシャバニはバケツを2つ、レヘマは1つ持って家を出ます。ねむくて目の開かないレヘマを「早くしないと学校におくれちゃうよ」とせかしながら、ふたりは並んでサバンナの道をずんずん進みます。レヘマもずいぶん早く歩けるようになりました。40分くらい歩くとようやく川の流れる音が聞こえてきました。川岸におりると二人はバケツに水をくみます。「できるだけきれいな水をくもうね。となりのアフィスワさんの赤ちゃん、死んじゃったのは水のせいだっていったもんね。」

帰りはバケツが重くて行きよりも大変です。ムワシャバニも両手にバケツを持っているのでよるけるレヘマを助けてあげることもできません。とちゅうで、同じように水くみにやってきた村の人や友だちとあいさつを交わします。「また後で学校でね。」大切な水をこぼさないように、一時間以上かかって家に着くと、かあさんがウガリ(トウモロコシの粉をお湯でねったもの)をつくって待っていました。「ごころうさま。早く食べて学校へ行きなさい。」

ムワシャバニとレヘマがくんでくる水は家族の生活に欠かせません。この水でウガリやスープもつくるし、手や顔もあらいます。二人の家族は、おばあちゃん、とうさん、かあさん、それに2さいになる弟と全部で6人です。一回の水くみでは足りないの、二人は学校から帰ってからもう一度水くみに行かなければなりません。二人ともねむるころにはへと

へとです。家族は畑の仕事にいそがしく、どんなに大変でも水くみは子どもの仕事なのです。二人は「水くみに行かなくてよくなればどんなにいいかしら」と毎日想像していました。

\* \* \*

ある日、子どもたちがおどり上がるようないいニュースが村を駆けめぐりました。ユニセフがハンガ村で、雨水をためるタンクを作ることになったのです。ハンガ村にはたくさん雨がふります。でもトウモロコシや小麦などの作物に注ぐ以外の雨はすべて地面にしみこみ、じょう発してしまうのです。「雨水をためて使うなんて、そんなかんたんなことにして気づかなかったのかしら」とムワシャバニはおどろきました。

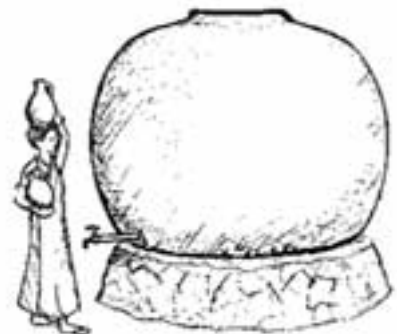
人口約千人のハンガ村には6つのタンクができました。ふった雨がたまってタンクがいっぱいになると、3日間はそのから水をくむことができます。

タンクができた日、ムワシャバニとレヘマは何度もタンクを見に行きました。思ったよりもかんたんなものだったので、なんだか期待はずれのような気がしましたが、このタンクのおかげで、雨さえふれば、もう川まで水くみに行かずにすむと思うと、タンクがきらきらとかがやいているように見えました。

\* \* \*

水くみに行かなくてすむようになって、二人は学校の勉強をもっとがんばれるようになりました。レヘマはなかなか文字をおぼえられなかったのですが、今では教科書を全部1人で読めるくらいになりました。ムワシャバニは、将来、上の学校に進んで、学校の先生になりたいと思っています。

今日もムワシャバニとレヘマは「あしたも雨がふりますように」とおいのりしてねむります。タンクは二人にゆめまで運んできてくれました。



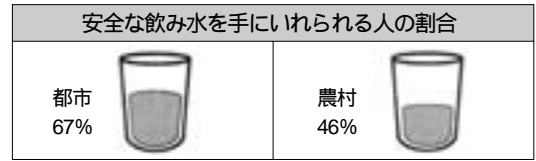
セメントをかためて作った雨水をためるタンクの一例 (SCOUTING DEVELOPMENT AND APPROPRIATE TECHNOLOGY、ワールドスカウトビューローより抜粋)

# タンザニアのデータ

面積	945,087km <sup>2</sup> (日本の約2.5倍)	
人口	2800万人 (約70%が15歳以下の子ども)	
民族構成	スクマ(12.3%) マコンデ(3.9%) チャガ(3.5%) など120以上の種族からなる。	
主要言語	スワヒリ語と英語が公用語	
宗教	イスラム教、キリスト教、伝統宗教がほぼ1/3ずつ	
産業 (内GDP比率)	農業(44%)	労働力の90%を占める 輸出用産品 コーヒー、綿花など(輸出の80%) 自給用作物 とうもろこし、キャッサバ(いもの一種) (生産量が需要量より少ない、自分たちの食べる分が足りない)
	サービス業(40%)	観光(近年力を入れている)、運輸、金融
	工業(16%)	製造、鉱業・土石

## タンザニアの子どもデータのデータ

5歳未満児死亡率 1000人あたり	1960年	1994年
	210	56



\*ユニセフ「世界子供白書1996」より

## 日本との貿易



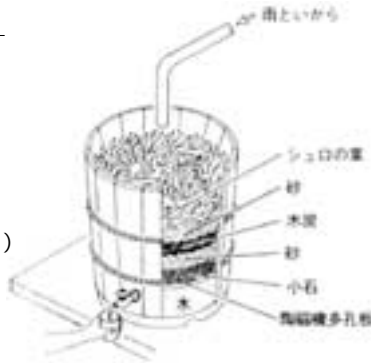
## 私たちの水は.....

タンザニアのムワシャバニは「雨水をためて使うなんて、そんな簡単なこと」と驚いていましたが、日本も「雨水をためて」水を使っています。ハンガ村では雨水をタンクにためていましたが、私たちは主にダムでためた後、殺菌処理をして各家庭に給水しています。そういう貴重な雨水を利用した日本の事例を2つご紹介します。

### 事例1

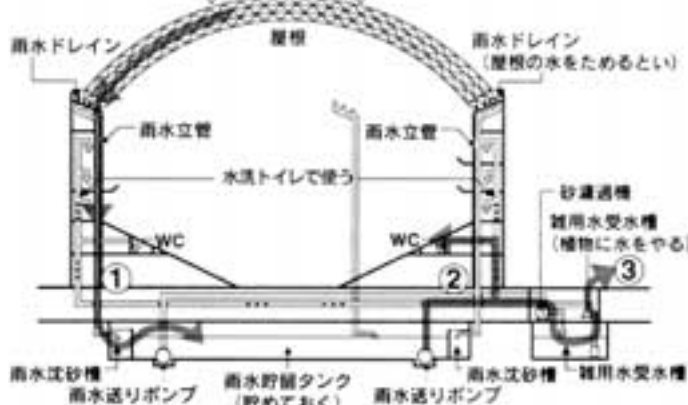
日本の島しょ部の  
雨水利用の一例

\*参考文献  
「やってみよう雨水利用」  
北斗出版  
(グループ・レインドロップス編)



### 事例2

福岡ドームの  
雨水利用



\*参考文献「日本の水資源」平成7年版、国土庁編

調べてみよう  
やってみよう

- 朝起きてから、夜ねるまでに、バケツ何杯分の水を使うのだろうか？またそれを運んでみよう。
- 水道の水はどこから来て、どうやって飲めるようになるのか、また、どこへ流れていくのか、自分が水になったつもりで調べてみよう。

### 参考文献

「タンザニア 開発途上国経済協力シリーズ」(財)国際協力推進協会  
「世界各国経済情報ファイル 1995」日本貿易振興会監修  
「国際情報大事典」1994、学研



## タンザニア料理に挑戦!

作るもの.....肉のピラフ(6人分)

食べた.....家族全員で楽しみながら(テレビを消して)

材 料.....米4カップ(といでおく)、牛肉1kg、  
ジャガイモ6個、ほしびどう1/2カップ、  
玉ねぎのスライス1/4個分、  
にんにく2個(スライス)  
スパイス(ブラックペッパー、シナモン)など

### 作り方

牛肉とジャガイモを1/4さじの塩を加えてゆでる。ジャガイモがやわらかくなりすぎない位で火を止める。

別の深なべを用意し、3/4カップの油を入れ熱する。玉ねぎのスライスを入れていため、茶色になる手前で、ほしびどうとスパイスを入れる。2分位したら、塩1さじ半、その後ににんにくを入れる。途中、木のスプーンでよくかきまぜる。

米4カップを の中に入れ、米がかたまらないようによくかきまぜる。約10分そのままにしておく。

できたものに、 の牛肉とジャガイモ、熱湯1リットルを加える。軽くかきまぜふたをする。米のしんがなくなるまでふたをして煮こむ。途中数回かきまぜる。

水分がなくなったら、オープンで15分温めて、できあがり!!

タンザニアにあるアフリカ東海岸は、アフリカ、アラブ、アジアの文化が接する所で、このピラフにも3つの料理の文化がこめられています。

取材協力：タンザニア大使館